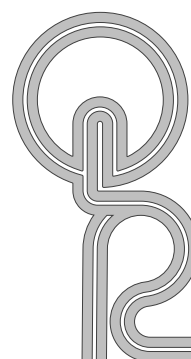


第四紀通信

Vol. 5 No. 1, 1998



写真説明 仙台市富沢遺跡保存館 - 地底の森ミュージアム
地下展示室に保存された 2 万年前の林のあと (本文参照)

Vol. 5 No. 1		January 30, 1998	
日本第四紀学会ミニシンポジウム	2	IGCP-396 国際会議	12
日本第四紀学会論文賞について	2	世界考古学会議	13
地球惑星科学関連学会合同大会	3	自然史学会連合ニュース	14
合同大会セッション一覧	4	幹事会議事録	15
日本考古学協会第 64 回総会	10	表紙写真の説明	15
PAGES Open Science Meeting	11	会員消息	16

日本第四紀学会ミニシンポジウム（第2報）

下記のように日本第四紀学会のミニシンポジウムを開催いたします。多数の会員の皆様がミニシンポジウムに参加されますようお願いいたします。

記

日 時： 1998年2月14日（土）午後2～6時
会 場： お茶の水女子大学生生活科学部本館2階208号室
地下鉄丸の内線茗荷谷駅徒歩5分（下図）
オーガナイザー： 太田陽子・大村明雄・中森 亨
テ - マ： 南西諸島喜界島のサンゴ礁段丘に関する諸問題と最近の成果

<主旨>

日本列島でもっとも隆起速度の大きい場所の一つである喜界島で、科学研究費による3つの研究が実施されています。今なぜ喜界島が問題にされるのか、これまでの研究をふりかえりつつ、本島のもつ意味をさぐり、新しい成果の一端を紹介いたします。発表者は太田陽子・大村明雄・中森 亨・佐々木圭一・杉原 薫・木山 修・山田 努ほかで、従来の研究と問題点、パプアニューギニア・ヒューオン半島のサンゴ礁段丘との比較、ウラン系列年代と更新世段丘の対比、地表およびボーリング調査による完新世サンゴ礁段丘の形成過程、完新世から現世までの造礁サンゴ群集の推移、完新世初期の酸素同位体比などに関する発表を予定しています。

プログラム

太田陽子・大村明雄：喜界島サンゴ礁段丘の研究史と問題点 - パプアニューギニア・ヒューオン半島との比較 - (60分)

大村明雄・佐々木圭一・寺尾大介・村上和男：喜界島の更新世堆積物とそのウラン系列年代 (30分)

佐々木圭一・太田陽子・大村明雄：喜界島志戸桶海岸における完新世サンゴ礁段丘形成史 (30分)

杉原 薫：喜界島の完新世造礁サンゴ礁群集の遷移と礁の成長 (30分)

中森 亨・木山 修・山田 努：造礁サンゴPoritesに記録された完新世初期の酸素・炭素同位体比 (30分)

参加無料。事前登録等は必要ありません。直接会場においで下さい。なお第四紀通信4-6号で『人間科学部』とお知らせしたのは『生活科学部』の誤りでした。訂正いたします。問い合わせは企画委員まで（国立歴史民俗博物館 辻誠一郎 Tel. 043-486-0123）



日本第四紀学会論文賞受賞候補者の推薦について

本賞は会誌「第四紀研究」に優れた論文を発表した会員の表彰を通じて、第四紀学の進歩と本学会の発展を図ることを目的としています。本賞は規定により、毎年、会員の皆様から自薦・他薦によって候補者をご推薦いただき、論文賞受賞者選考委員会において候補者の選考を行います。受賞者は6月末日に決定され、8月に神奈川県立生命の星・地球博物館で開催される1998年度総会で表彰されます。なお、第四紀学会論文賞規定と同賞選考に関する内規は第四紀通信 No. 1-4, No. 4-5 (評議員会議事録)をご参照ください。

1. 選考対象：「第四紀研究」第35巻(1996年)および第36巻(1997年)に掲載された原著論文、短報、総説および特集号の論文
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を明記)および推薦理由を、記入する。
3. 推薦書類の提出先：〒113東京都文京区本駒込5-16-9学会センタ-C21内日本第四紀学会論文賞受賞候補者選考委員会
4. 推薦書類の受理期限：1998年3月31日(必着)

1998年地球惑星科学関連学会合同大会(第2報)

前号で大会の概要と発表申し込み方法をお伝えいたしました。電子投稿による講演申し込みは2月27日です。以下に電子投稿のあらましを再録するとともに、セッションの内容一覧を掲載いたします。セッションはアルファベット2文字の記号順に配列されています。

日本第四紀学会が主ホストとして開くセッションはLc:「第四紀」です。このセッションへの会員の皆様の参加を期待します。また、これ以外にも第四紀研究と関連するセッションの一部を紹介すると、Ab:「全地球史解読-炭素循環の変動の解読へ向けて: Toward a decoding biogeochemical cycle of carbon」、Ad:「地震フロンティア研究-新しい地震像探求への模索」、Lb:「突然かつ急激な気候・環境変動のダイナミクス」、Ma:「地層処分に関する地球科学的課題」、Ld:「フォッサマグナ・日本海東縁・極東ロシアの地質大構造と地震テクトニクス」、Sf:「活断層と古地震」などがあります。

地球惑星科学関連学会合同大会案内

1. 会期：1998年 5月26日(火) ~ 5月29日(金)
2. 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター (〒151東京都渋谷区代々木神園町3-1)
小田急線「参宮橋」駅下車 徒歩約7分
地下鉄千代田線「代々木公園」駅下車 徒歩約12分
3. 講演申込み
セッション案内を参照して、投稿するセッションを1つお選び下さい。
2月27日までインターネットを利用した電子投稿が可能です。
図の掲載を希望される方は他に1,000円の追加投稿料が必要です。詳細は第1報§3-4をご覧ください。
電子投稿方式について
 1. 投稿受付期間：1998年1月12日(月) ~ 2月27日(金)
 2. 講演申込み先
宇宙科学研究所、国立極地研究所及び名古屋大学太陽地球環境研究のWEBサーバーをご利用下さい。
URLアドレスはそれぞれ、
<http://gakkai.stp.isas.ac.jp/>
<http://www.nipr.ac.jp/~abstract>
<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/~abstract>
です。最初のもが主サーバー、残り2つが混雑時やトラブル発生時の予備用とお考え下さい。
 3. 投稿料 WEBサーバーの混雑緩和のため、受付日により投稿料が割引、割増されます。

受付日	投稿料
2月 1日(日) ~ 2月21日(土)	1,500円(標準料金)
2月22日(日) ~ 2月27日(金)	1,600円 ~ 2,100円(1日ごとに100円アップ)

日本第四紀学会 1998年大会

日 時： 1998年 8月26 ~ 28日 一般発表、総会、シンポジウム
8月29 ~ 30日 普及講演会及び巡検(1日または2日)

会 場： 神奈川県立生命の星・地球博物館

合同大会セッション一覧

Aa:「日本の地球科学：20世紀を振り返り、21世紀に期待すること」

(短縮セッション名：21世紀)【渡邊 誠一郎・小嶋 稔】

以下の項目についての招待講演より構成する。

a. 21世紀に活躍なさるジェネレーションからの将来への提案。

b. 20世紀に活躍されたジェネレーションから、21世紀に活躍する研究者に託す希望とアドバイス。

c. すべての大会参加者により、日本の地球科学の将来、そしてそれを考えるための過去の検討を専門、非専門の立場から〔関連する学会名：参加学会すべてにまたがったテーマである〕

連絡先：渡邊 誠一郎 〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科地球惑星科学教室
TEL: 052-789-3015 FAX: 052-789-3033
seicoro@eps.nagoya-u.ac.jp

Ab:「全地球史解読－炭素循環の変動の解読へ向けて：

Toward a decoding biogeochemical cycle of carbon」

(短縮セッション名：全地球史 / 炭素循環)

【川上 紳一・石渡 良志・伊藤 繁】

地球史における炭素循環の解読のトレーサーとしてバイオマーカー、炭素同位体比がある。GC-IR-MSにより、分子レベルで炭素同位体比の測定が可能になった。生物の炭素固定の仕組みと炭素同位体分別の環境要因依存性の理解をもとに、地球史における炭素循環の解読を目指す。地球環境の解読の現状と今後の課題を、比較的最近の第四紀の海洋環境の変動からグリーンランドイスア地域の堆積岩に残された生命活動(?)まで、いくつかの具体的課題に関する講演をもとに、今後の研究の方向性を議論する〔関連する学会名：地球化学会、地質学会、第四紀学会、生化学会など〕

連絡先：川上 紳一 〒501-1112 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学教育学部理科教育 TEL:058-293-2262 FAX:058-293-2207 kawa@cc.gifu-u.ac.jp

Ac:「全地球史解読 Decoding the whole history of the Earth」(短縮セッション名：全地球史 / 組織的研究)

【高野 雅夫・平田 岳史】

重点領域研究「全地球史解読」がスタートして3年たち、いよいよ成果がでそう時期にさしかかった。この計画の中では40億年の地球の歴史を一貫した地球の進化とみなし、それを記録している岩石試料を系統的に取得し、組織的な分析を行い、モデリングによってその理解をすすめる、さらにデータ取得への指針を与えるという、一連の研究プロセスのつながりを構築しようとしてきた。本セッションは、きわめて幅広い分野にまたがる研究成果をそろえて、全体を見渡し、新しい地球観・地球史観の構築をめざすものである〔関連する学会名：地震学会、火山学会、測地学会、地球化学会、地質学会、鉱物学会、気象学会など〕

連絡先：高野 雅夫 〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科地球惑星科学教室
TEL:052-789-2518 FAX:052-789-3033
masao@eps.nagoya-u.ac.jp

Ad:「地震フロンティア研究 - 新しい地震像探求への模索」(短縮セッション名：地震フロンティア)

【河野 芳輝・安藤 雅孝】

地震フロンティアとは、5つの切り口で新しい観測・解析法を用いて、地震現象の総合的な解明に向けて、平成8年度10月以降から立ち上がったプロジェクトである。各フロンティアでの研究活動の紹介・報告をまとめ、「地震フロンティア」

研究を目指す諸分野からの総合的な議論を行う。フロンティア研究に携わる関係者以外にも新しく斬新な観測・解析手法や応用についての発表を歓迎する。研究成果の社会への適切な還元の方法・応用的研究についても議論したい。

〔関連する学会名：地震学会、火山学会、測地学会、地球化学会、惑星科学会、第四紀学会、地質学会、地球電磁気・地球惑星圏学会など〕

連絡先：河野 芳輝 〒920-1164 石川県金沢市角間町金沢
大学理学部 TEL:076-264-5731 FAX:076-264-6062
kono@hakusan.s.kanazawa-u.ac.jp

Ae:「テクトニクス」【木村 学・徳山 英一】

このセッションの目的は、さまざまな時間・空間スケールでのテクトニクス現象から固体惑星の変形のメカニズムを明らかにすることである。異なった背景をもつ研究者が一同に集い、各種の研究成果を持ちよって議論することにより新しい展望が開けることを期待する〔関連する学会名：地震学会、火山学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、地質学会など〕

連絡先：木村 学 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院理学系研究科 TEL:03-3812-2111(4510)
gaku@geol.s.u-tokyo.ac.jp

Af:「GPS:地球システム・センサー - GPS/MET JAPAN - 」(短縮セッション名：GPS 気象学)

【瀬古 弘・松嶋 成佳・藤原 智・宮崎 真一】

GPS 気象学は、GPS や VLBI などの宇宙測地計測ではノイズにすぎない水蒸気情報を気象学での有益な情報とすると同時に、測地学へのフィードバックにより測位精度向上を目指す。本シンポジウムでは、GPS 気象学入門編とも言うべきまとめた成果を報告する。なお、本セッションは招待講演のみで構成される。したがってあらかじめコンピーナと連絡の上、申し込むこと〔関連する学会名：測地学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、気象学会など〕

連絡先：瀬古 弘 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象庁気象研究所 TEL:0298-53-8632 FAX:0298-53-8649
hseko@mri-jma.go.jp

Ag:「揮発性元素の地球・惑星科学」

(短縮セッション名：揮発性元素)

【佐野 有司・坂本 尚義・篠原 宏志・田近 英一・川本 竜彦】

揮発性元素はマイクロからマクロの広いスケールで地球・惑星の進化に重要な影響を与える。最近、揮発性元素の局所分析、微量分析、状態分析を可能にする技術の開発が盛んである。本セッションでは、(a) 新技術の成果とその応用の可能性、(b) 地球構成物質の分化・脱ガス・循環など地球・惑星の進化過程、(c) マントルにおけるマグマ生成、含水鉱物の安定性、揮発性元素の分配に関する話題を募集する。これまで交流の少なかった各分野に議論の場を提供する〔関連する学会名：火山学会、地球化学会、惑星科学会、岩石鉱物鉱床学会、鉱物学会、資源地質学会など〕

連絡先：佐野 有司 〒739-0046 広島県東広島市鏡山1-3-1 広島大学理学部地球惑星システム学科
TEL: 0824-24-7464 FAX:0824-24-0735
yuji@letitbe.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp

Ah:「月の起源と探査」

(短縮セッション名：月)【小野 高幸・加藤 學・大江 昌嗣】

このセッションでは月の起源(固体並びに周辺のプラズマ電磁気環境を含む)に関する基礎研究、探査計画、探査手法開発、探査体データ解析結果等についての発表を歓迎します。〔関連する学会名：地球電磁気・地球惑星圏学会、惑星科学会、測地学会など〕

連絡先：小野 高幸 〒980-77 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学大学院理学研究科地球物理学宇宙地球電磁気分野
TEL: 022-217-6515 FAX:022-217-6517
ono@stpp3.geophys.tohoku.ac.jp

Ai: 「火星の観測と理論」

(短縮セッション名: 火星)【品川裕之・三宅互・平原聖文】
火星の研究は、最近の衛星探査や地上観測、理論研究等の発展により、現在新たな段階を迎えつつある。さらに1998年7月打ち上げ予定のPlanet-Bにより、今後一層の発展が期待されている。本セッションでは、各分野におけるこれまでの観測的・理論的研究を整理し、分野間の交流を図ると共に、今後の研究の方向を議論する。招待講演(4-5件)と一般講演の両者で構成する。[関連する学会名: 火山学会、地球化学会、惑星科学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、鉱物学会、地質学会、天文学会、宇宙生物科学会など]

連絡先: 品川裕之 〒442-0061 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所 TEL:0533-89-5185
FAX:0533-89-5090 sinagawa@stelab.nagoya-u.ac.jp

Aj: 「プラズマ過程の類似性と相違性: 地球・惑星・太陽・天体磁気圏」(短縮セッション名: 惑星/天体プラズマ)

【星野真弘・柴田一成・鶴飼正行】

宇宙空間でのプラズマ現象は、最近の高機能衛星観測などにより著しく理解が進んだ。例えば、太陽フレアおよび地球・惑星磁気圏で観測される磁気リコネクションや粒子加速などの現象は、太陽の高温プラズマ領域や地球・惑星磁気圏で同じような性質を有し、普遍的物理過程として議論される。また、これらのプラズマ過程は天体磁気圏の高エネルギープラズマ現象にも応用される。しかし、地球、惑星、太陽、天体磁気圏では、磁場のトポロジーや境界条件などいくつかの基本的な違いが内在している。本セッションでは、宇宙空間でのプラズマ現象を理論および観測の両側面から比較し、高温プラズマ中での物理過程の更なる知見を得ることを目的とする。[関連する学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会、天文学会、惑星科学会など]

連絡先: 星野真弘 〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所 TEL:0427-51-3911(2006)
FAX:0427-59-4255 hoshino@gtl.isas.ac.jp

Ak: 「地球深部の物質・構造・ダイナミクス」

(短縮名: 地球深部)【桂智男・鈴木敏弘・吉岡祥一】

「我々が直接アクセスすることのできない地球の深部は、いったいどのようになっているのか?」とは、地球科学における最も基本的な問いの一つである。このセッションではこの素朴な疑問に答えるべく、地球物理学的観測・高温高圧室内実験・数値実験・地球化学的研究等の幅広いアプローチを通じて、地球深部に関する我々の理解を深めることを試みる。[関連する学会名: 鉱物学会、地震学会など]

連絡先: 桂智男 〒682-0122 鳥取県東伯郡三朝町山田827
岡山大学固体地球研究センター TEL:0858-43-1215 FAX:
0858-43-2184,3450 tkatsura@misasa.okayama-u.ac.jp

Ca: 「対流圏エアロゾルとその気候影響」

(短縮セッション名: 対流圏エアロゾル)

【河村公隆・林田佐智子・北和之・中島映至】

対流圏エアロゾルはその気候への影響が注目されているが、これまで観測データの不足から十分な検討がなわれてこなかった。近年、衛星データからその光学的パラメータの導出の努力が精力的に行われ、AVHRRおよび海色センサーによるエアロゾルの直接効果と間接効果の全球解析などが進んでいる。また、来年度から、重点領域「対流圏化学グローバルダイナミクス」が始まり、国際的には、「Asian Pacific Regional Aerosol Characterization Experiment (ACE-Asia)」の計画が

具体化されつつある。このようにエアロゾルが再び注目を集めつつあるときに、「対流圏エアロゾル」のシンポジウムはタイムリーな企画であると思われる。[主ホスト学会名: 地球化学会]

連絡先: 河村公隆 〒060-0819 札幌市北区北19条西8北海道大学低温科学研究所 TEL:011-706-5457 FAX:011-706-7142 kawamura@soya.lowtem.hokudai.ac.jp

Cb: 「地球表層での化学過程と元素循環」

(短縮セッション名: 地球表層化学)【石橋純一郎・中嶋悟】
地球表層における様々な化学過程と元素循環の解明は、地球化学の主要な研究テーマの一つである。本セッションでは、これを対象としたケーススタディ・分析手法の進展・実験的観察・計算機シミュレーションなど多方面からのアプローチの成果発表を広く募集する。[主ホスト学会名: 地球化学会]

連絡先: 石橋純一郎 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地殻化学実験施設 FAX: 03-3812-2111(4623) FAX:03-3816-1784 ishi@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

Cc: 「地殻流体の総合的理解に向けて:(2) 島弧における大規模流体移動」(短縮セッション名: 地殻流体)

【五十嵐丈二・岩森光・小泉尚嗣】

近年、さまざまな地球科学の分野で地殻流体研究の重要性に関する認識がますます高まってきている。本セッションの目的は、これまでの学問分野の枠組みを越えた学際的な研究体系に基づいて、地殻流体に関する理解をより深めることである。今回はその第2回目として、島弧における大規模な流体移動に焦点をあて、流体の起源、輸送メカニズム、地殻活動におよぼす影響などについて議論する。[主ホスト学会名: 地球化学会]

連絡先: 五十嵐丈二 〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学理学部地殻化学実験施設 TEL: 03-3812-2111(4649) FAX:03-3816-1784 iga@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

Da: 「測地学一般」【福田洋一・仙石新】

測地学の主要目的である地球の大きさや形状に関する研究はもとより、高度な宇宙技術を利用した位置計測、地球重力場とその変化の研究、測地学的な手法ならびにデータを利用した地球回転、地球潮汐などの地球動力学的研究、および、これら全般に関する理論的研究などを対象とする。[主ホスト学会名: 測地学会]

連絡先: 福田洋一 〒606-8224 京都府京都市北白川追分町京都大学大学院理学研究科地球物理学教室
TEL:075-753-3912 FAX:075-711-1374
fukuda@kugi.kyoto-u.ac.jp

Db: 「地殻変動」【中尾茂・大谷文夫】

地球の表面はさまざまな内的営力によって、日々変形を続けている。その量は微少でも、地震発生、火山活動、プレート運動などと大きく関わり合っており、地殻の構造とダイナミクスの反映と考えられる。このセッションでは宇宙測地学(GPSやSAR、VLBI、SLRなど)を利用した広範囲の地殻変動の測定、水準・光波測量、重力測定などの反復による時間変化の測定、横坑、ポアホール内での伸縮計、傾斜計を用いた連続観測など様々な方法によりとらえたあらゆる時空間スケールの地球の変動を対象とする。観測された現象とその解釈、モデルなど、広範な話題の発表を期待する。また確かなデータに立脚した議論のために観測されたデータに含まれているノイズの特性に関する発表も歓迎する。[主ホスト学会名: 測地学会]

連絡先: 中尾茂 〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3812-2111(5797) FAX:03-3813-8026 nakao@eri.u-tokyo.ac.jp

学会からのお知らせ

Dc:「地球計測技術」【藤原智・土井浩一郎】
地球の形状と重力場およびそれらの変動を捉える現代測地学において、最近、その計測技術がめざましく進歩した。VLBI, SLR, GPS, 衛星高度計, 干渉SAR, 重力計, 歪み計など、最新の地球計測技術とその成果を追求する。
[主ホスト学会名: 測地学会]

連絡先: 藤原智〒305-0811 茨城県つくば市北郷1 番建設省国土地理院測地第一課 TEL: 0298-64-4774
FAX: 0298-64-1802 fujiwara@gsi-mc.go.jp

Dd:「GPS:地球システム・センサー - 地球流体圏, 電磁圏の変動解明に向けて -」(短縮セッション名: GPS/変動解明)【宮崎真一・市川隆一】

GPS気象学は、気象学、測地学のみならず、水蒸気情報データベースの活用を通して水文学、海洋物理学、あるいは環境科学への多大な寄与が期待される。また、類似の解析手法の応用が可能な電磁圏の変動解析も進められている。本共通セッションでは、GPSによる地球変動解明のあらゆる試みを網羅する[主ホスト学会名: 測地学会]

連絡先: 宮崎真一〒305-0811 茨城県つくば市北郷国土地理院測地観測センター TEL:0298-64-4811
FAX:0298-64-6864 miyazaki@gsi-mc.go.jp

Ea:「大気圏の力学・化学過程」

(短縮セッション名: 大気圏)【村山泰啓・村田功】
地球大気の大気圏から中層大気、さらに下部熱圏に至る領域における大気運動・化学・放射過程、ならびにそれらの相互作用についての理論、観測、データ解析、モデルに関する発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 村山泰啓〒184 東京都小金井市貫井北町4-2-1 郵政省通信総合研究所第5研究チーム TEL:0423-27-6685 FAX:0423-27-6678 murayama@crl.go.jp

Eb:「地球内部電磁現象(電気伝導度・地殻活動電磁気学・磁場計測)」(短縮セッション名: 内部電磁現象)【歌田久司・大志万直人・村上英記】

地球内部の電気伝導度構造やそのテクトニクスとの関連、岩石等の電気伝導度を求める実験、地震・火山活動に伴う磁場、比抵抗、自然電位、電磁放射等の電磁気現象、電磁気観測のための計器・システムの開発、その他地球内部の電磁現象についての発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 歌田久司〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3812-2111(5722) FAX:03-3812-9417 utada@utada-sun.eri.u-tokyo.ac.jp

Ec:「地磁気, 古地磁気, 岩石磁気」
(短縮セッション名: 古地磁気/岩石磁気)

【山崎俊嗣・渋谷秀敏・松島政貴】
このセッションでは、現在および過去の地球や他の惑星の磁場の状態とその起源についての理解を深めるための実験、観測、理論、数値シミュレーション、及び、テクトニクス、磁化構造、層序学、古環境など地磁気、古地磁気、岩石磁気の応用についての発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 山崎俊嗣〒305-0046 茨城県つくば市東1-1-3 地質調査所海洋地質部 TEL: 0298-54-3591
FAX:0298-54-3589 yamazaki@gsj.go.jp

Ed:「電離圏・熱圏構造とダイナミクス」
(短縮セッション名: 電離圏/熱圏)【丸山隆・前田佐和子】

このセッションでは、惑星電離圏を含む電離層・熱圏についての理解を深めるために、それらの構造とモデリングおよびそこでの力学過程、電離層プラズマ不安定、下層大気との結合、電離層嵐、中性大気、電離層ダイナモ等についての発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 丸山隆〒184-8795 小金井市貫井北町4-2-1 郵政省通信総合研究所宇宙科学部 TEL: 0423-27-7531
FAX: 0423-27-6676 tmaru@crl.go.jp

Ee:「磁気圏 - 電離圏結合」
(短縮セッション名: 磁気圏/電離圏)

【藤田茂・藤井良一・林幹治・菊池崇】
このセッションでは、磁気圏と電離圏の相互作用の結果生じる様々な現象の物理過程の理解を深めるために、オーロラ、沿磁力線電流、サブストーム、磁気圏電離圏結合モデル、ULF波動、中性風との相互作用等の研究発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 藤田茂〒277 千葉県柏市旭町7-4-81 気象大学校 TEL:0471-44-7185 FAX:0471-46-1896
sfujita@typhoon.mc-jma.ac.jp

Ef:「磁気圏構造とダイナミクス」(短縮セッション名: 磁気圏構造)【町田忍・森岡昭・小原隆博】

このセッションでは、地球および惑星磁気圏の巨視的な構造と力学過程についての理解を深めるために、内部磁気圏・磁気圏尾部・磁気圏界面・バウショック等の構造ならびに磁気嵐・サブストーム等の発生に伴うそれらの領域のダイナミクスを対象とした実験・観測や理論的なモデリング・計算機シミュレーションによる研究発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 町田忍〒606 京都市左京区北白川道分町京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地球物理学分野 TEL: 075-753-3952 FAX:075-722-7884
machida@kugi.kyoto-u.ac.jp

Eg:「太陽圏・宇宙線・太陽地球環境変動」(短縮セッション名: 太陽圏)【渡辺堯・袴田和幸・藤井善次郎】

このセッションでは、太陽活動に起因して、太陽圏で生じる様々なプラズマおよび高エネルギー粒子現象や、地球環境への影響についての理解を深めるため、太陽風、太陽圏構造、宇宙線、黄道光、太陽活動と地球環境の関連等についての研究発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 渡辺堯〒310 水戸市文京2-1-1 茨城大学理学部地球科学科 TEL:029-228-8399 FAX:029-228-8405
watanabe@env.sci.ibaraki.ac.jp

Eh:「宇宙プラズマ素過程・プラズマ波動」(短縮セッション名: プラズマ素過程/波動)【橋本弘蔵・田中高史】

このセッションでは宇宙空間におけるプラズマ現象についての微視的な観点からの理解を深めるために、宇宙プラズマ素過程やプラズマ波動、衝撃波等に関する理論・実験・観測・および計算機シミュレーションによる研究の発表を歓迎します[主ホスト学会名: 地球電磁気・地球惑星圏学会]

連絡先: 橋本弘蔵〒611 宇治市五ヶ庄京都大学超高層電波研究センター TEL: 0774-38-3807 FAX:0774-31-8463 kozo@kurasc.kyoto-u.ac.jp

La:「バクテリア活動と地球環境」(短縮セッション名: バクテリア活動)【田崎和江・赤井純治・山本啓之】

バクテリアは地球の地圏、水圏、大気圏のあらゆる場所、例えば、高温の地熱地帯、温泉地帯から、南極の氷の下、深

海底のブラックスモーカーまでの極限状態でも生息し、あらゆる元素や物質の循環に関与している。今日の地球環境は物理的、化学的な反応に加え、生物的な反応でコントロールされている。このバランスが崩れたとき、大気汚染、土壌汚染、重金属汚染などの地球環境が問題となる。バクテリアの働きを地球科学、環境科学から討論する。特に、今回はバイオマット（微生物被膜）と生体鉱物の生成条件にスポットをあて微生物学と地球科学の両面から地球環境と地球の歴史を考える。〔主ホスト学会名：地質学会〕

連絡先：田崎和江〒920-1192金沢市角間町金沢大学理学部地球学教室 TEL:076-264-5736 FAX:076-264-5746 kazueta@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp

Lb:「突然かつ急激な気候・環境変動のダイナミクス」(短縮セッション名：気候/環境変動)

【福澤仁之・多田隆治・南川雅男・鳥居雅之・北川浩之】
現在や近未来の気候システムの安定性を考えるとき、最終氷期に起こった突然かつ急激な気候・環境変動の様式を復元し、その伝播過程を明らかにする事は重要である。シンポジウムでは、こうした突然かつ急激な気候・環境変動のダイナミクスについて、氷床コアや陸域・海洋の堆積物などの高精度分析からせまり、現在のような間氷期にも同様な変化は起こりうるか否かについても検討したい〔主ホスト学会名：地質学会〕

連絡先：福澤仁之〒192-0364八王子市南大沢1-1東京都立大学大学院理学研究科地理学専攻
TEL:0426-77-2605 FAX:0426-77-2589
fukusawa@comp.metro-u.ac.jp

Lc:「第四紀」【斎藤文紀・山崎晴雄】

最新の地質時代である第四紀は、現在の地球の変動を理解するうえで重要な役割を果たしている。第四紀におけるテクトニクス、環境変動、海水面変動、地層・テフラ層序、人間活動の記録、などを広く討議する〔主ホスト学会名：第四紀学会〕

連絡先：斎藤文紀〒305-0046つくば市東1-1-3地質調査所海洋地質部 TEL:0298-54-3772 FAX:0298-54-3709 yoshi@gsj.go.jp

Ld:「フォッサマグナ・日本海東縁・極東ロシアの地質大構造と地震テクトニクス」

(短縮セッション名：地質大構造/テクトニクス)
【伊藤谷生・奥村晃史・倉本真一・石田聖・嶋本利彦】
本シンポジウムでは、フォッサマグナ地域から日本海東縁・サハリンを経て極東ロシアに至る地域の地質大構造と活断層のデータをまとめ、プレート境界域の構造を明らかにして、どの部分が地震を起こしているかを浮き彫りにする。地表地質に加えて官庁・石油業界・大学などの放射法探査結果もまとめて報告する。また、サハリンの活断層については、大学・地調・IMGGの最近の調査結果を紹介する。極東ロシアについては、コズーリン博士に特別講演を依頼する。極東ロシアの地震テクトニクスに関して、地震・GPS・活断層・テクトニクス・基盤地質などの分野で進行中の共同プロジェクトの現状と今後の計画についても取りあげたい〔主ホスト学会名：地質学会〕

連絡先：嶋本利彦〒113-0032東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所 TEL:03-3812-2111(5757)
FAX:03-5802-3391 shima@eri.u-tokyo.ac.jp

Le:「クラトンと沈み込み帯の地質」(短縮セッション名：クラトン/沈み込み帯)【鳥海光弘・新妻信明・木村学】
地殻の形成と進化の過程は46億年の間大きく変遷してきたが、その基本的な地質過程はクラトンの内部の地質構造

と境界の沈み込み帯の地質構造に記録されている。その記録の解読を新しい地質学的な視点で世界各地、及び日本に発達する付加体で明らかにしたい〔主ホスト学会名：地質学会〕

連絡先：鳥海光弘〒113-0033東京都文京区本郷7-3-1
東大理学部地質学教室 TEL:03-3812-2111(4507) FAX:
03-3815-9490 tori@geol.s.u-tokyo.ac.jp

Lf:「中央海嶺の3次元地殻構造とマグマ・熱水活動：Ridge Flux 計画の最新成果」

(短縮セッション名：Ridge Flux 計画)

【浦辺徹郎・藤岡換太郎・藤本博巳】

中央海嶺および縁海拡大軸の調査・研究は、従来の手法に加えて、TAMU2などのサイドスキャンによる画像、潜水艇を用いた試料採取、海底機器による長期観測などにより急激な展開を見せ、海嶺におけるマグマ・熱水活動と地殻構造の関係と進化がより精密に分かってきた。このセッションではリッジフラックス計画などによる東太平洋海膨、大西洋中央海嶺、インド洋中央海嶺などにおける研究の進展を網羅する〔主ホスト学会名：地質学会〕

連絡先：浦辺徹郎〒305-0046茨城県つくば市東1-1地質調査所 TEL:0298-54-3612 FAX:0298-54-3633
urabc@gsj.go.jp

Lg:「オマーンオフィオライトと海洋地殻生成のダイナミクス」(短縮セッション名：海洋地殻生成)【宮下純夫・木川栄一・川幡穂高・藤岡喚太郎】

オマーンオフィオライトは世界最大であり、これまで多くの研究がなされている。本オフィオライトは、海嶺下のダイナミクス、例えば上部マントルにおけるメルトの発生と上昇、マグマチェンバーの形態や海嶺のセグメント化に伴う深部の地質現象、物質循環などを解析する上で、最適のフィールドである。本セッションでは、最近、日本チームによって開始されたオマーンオフィオライトの研究を紹介するとともに、海嶺における関連する最近の研究も検討する。〔主ホスト学会名：地質学会〕

連絡先：宮下純夫〒950-2102新潟市五十嵐2の町8050
新潟大学理学部地質科学科教室 TEL:025-232-6193
FAX:025-262-6194 miyashit@scux.niigata-u.ac.jp

Ma:「地層処分に関する地球科学的課題」(短縮セッション名：地層処分)【鹿園直建・武田精悦・湯佐泰久】

地層処分は、考慮する時間が長く、また対象とする場が地下深部であることなどからみて、地球科学が取り組まなければならない今日的な課題である。関連する地球科学の分野は、地球化学・地質学・鉱床学・地下水学・地震学・火山学・第四紀学などきわめて広い。本セッションでは、この地層処分に関する地球科学的課題について、様々な角度から発表と討論を行う〔主ホスト学会名：資源地質学会〕

連絡先：鹿園直建〒223横浜市港北区日吉3-14-1慶応大学理工学部応用化学科 TEL:045-563-1141
FAX:045-563-0446 sikazono@applc.keio.ac.jp

Mb:「地球惑星物質の物理化学」(短縮セッション名：地惑物質の物理化学)【神崎正美・河村雄行】

地球・惑星の物質科学は、地球惑星関連分野共通の基礎であるが、各分野で独自に研究されている。本セッションでは分野間の枠を取り払い、地球・惑星を物質レベルで取り扱う研究を広く応募する。特にマイクロな実験・計算をマクロな地球・惑星系に適用する研究を歓迎する。対象は固体のみならず、ガス、溶液、融体等も含み、無機・有機を問わない。実験・理論・計算のいずれでもよい。広い分野・学会からの参加を歓迎する〔主ホスト学会名：鉱物学会〕

学会からのお知らせ

連絡先：神崎正美 〒682-0122 鳥取県東伯郡三朝町山田827 岡山大学固体地球研究センター TEL:0858-43-1215 FAX:0858-43-3450 mkanzaki@misasa.okayama-u.ac.jp

Mc:「岩石・鉱物・資源」(短縮セッション名:岩石/鉱物/資源)【今井亮・石川正弘・村上隆】

このセッションでは地球・惑星物質を研究対象として、鉱物学・岩石学・鉱床学およびそれに関連する分野の発表を広く受け入れる。地球表層物質(粘土など)から、地殻・マントル・コアに至るまでの様々な物質(岩石・鉱物・マグマなど)、資源に関連した物質(鉱床など)、また惑星物質(隕石、月、火星など)の研究について、新しい研究方法の開発なども含めて、最近の成果を議論する場を提供する【主ホスト学会名:資源地質学会/副サポート学会:岩鉱学会、鉱物学会、地球化学会】

連絡先:今井亮 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東大理学部地質学教室 TEL:03-3812-2111(4517) FAX:03-3815-9490 akira@tsunami.geol.s.u-tokyo.ac.jp

98.1.9追記:このセッションは三鉱学会(岩鉱学会、鉱物学会、資源地質学会)一般の発表の受け皿であり、かつ地球化学会のサポートも得ているものです。主ホスト学会を1つに絞るといふ一般方針のために資源地質学会に代表となっていました。昨年十一月の段階で、他のセッションの副サポート学会について未定が多く、連絡会ニュースには主サポート学会のみを掲載することにしました。このセッションに関する上記の方針が不明瞭になってしまいました。お申し出により、特にこのセッションについては副サポート学会を表示いたしました。

Md:「地球惑星物質の組織と数理」(短縮セッション名:地惑物質の組織と数理)【土山明・鳥海光弘・中嶋信】
地球や惑星における物理過程の多くは非平衡状態でダイナミカルなプロセスで進行する。この結果形成された様々な組織やパターンの成因論(成因・履歴の推定など)、機能論(物性の発現・予言など)を明らかにし、その理解を深める。火成岩、変成岩、堆積岩、隕石、鉱物などの組織について、定量的な記載法、実験や理論などの講演を公募し、統一的な理解のための「複合系の物理学」としての組織学の構築をめざす。また、これらの物質に見られる自己組織化現象について、地質現象と関連して様々の時間空間スケールから議論する。【主ホスト学会名:岩石鉱物鉱床学会】

連絡先:土山明 〒560 大阪府豊中市待兼山町1-16 大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 TEL:06-850-5800 FAX:06-850-5817 akira@ess.sci.osaka-u.ac.jp

Pa:「惑星科学」【田近英一・倉本圭・田中秀和】
惑星科学の発展は、理論・実験・分析・観測・探査など、さまざまな手法と視点からの研究によって支えられている。そこでこのセッションでは、特定の手法や研究対象などにとらわれず、広く惑星科学に関係した研究成果の発表を募集する。幅広い分野からの参加を歓迎する【主ホスト学会名:惑星科学会】

連絡先:田近英一 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科地質学専攻 TEL:03-3812-2111(4516) FAX:03-3815-9490 tajika@geol.s.u-tokyo.ac.jp

Pb:「太陽系小天体と隕石の科学」(短縮セッション名:太陽系小天体)【向井正・藤原顕・香内晃・三沢啓司】
太陽系小天体(彗星、小惑星、衛星等)と隕石は、太陽系形成初期の情報をとどめる始原天体である。ここでは、小天体の観測的研究、室内での模擬実験的研究、数値シミュレーションによる力学進化等の理論的研究、隕石母天体の研究な

ど、多方面において実施されている研究の成果を報告し、始原天体研究の将来像を検討する。更に、現在進行中の、小惑星サンプルリターン計画(MUSES-C)におけるサイエンス課題の討議も併せて行う【主ホスト学会名:惑星科学会】

連絡先:向井正 〒657 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学理学部地球惑星科学科 TEL:078-803-0574 FAX:078-803-0490 mukai@kobe-u.ac.jp

Pc:「学際領域としての宇宙塵研究」

(短縮セッション名:宇宙塵)【矢野創・向井正・渡部潤一】
宇宙塵は望遠鏡(天文学)と顕微鏡(物質分析科学)の両方で研究できるユニークな研究対象である。近年、原始惑星系円盤の観測や、太陽系内に流入する星間塵など、新しい展開が見られる。日本独自の宇宙塵研究としても、地上及び赤外線望遠鏡による黄道光・対日照観測、SFU衛星の微粒子衝突痕調査、炭素質微粒子の室内生成実験などの成果が生まれている。また将来計画も豊富で、第39次南極観測隊による氷床からの宇宙塵採集、火星探査機Planet-Bによる惑星間空間の微粒子計測、宇宙塵の起源としての地球近傍小天体のサンプルリターン、国際宇宙ステーション曝露部での微粒子計測などがラインアップしている。さらに98年11月には、33年ぶりのしし座流星雨の発生が期待されている。このように宇宙塵研究は、天文学から超高層大気、地球化学、鉱物、惑星科学までの様々な分野において、観測・探査・実験・分析・理論らの多様な手法を用いて総合的に探究すべき、極めて学際的なテーマである。本セッションは、宇宙塵研究の最新の成果や計画を持ち寄り、議論を高め、さらに異分野間の相互交流と新しい研究協力を促すことを目的とする【主ホスト学会名:惑星科学会】

連絡先:矢野創 〒229 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所 TEL:0427-51-3911(2533) FAX:0427-59-4237 yano@planeta.sci.isas.ac.jp

Sa:「地震の理論・解析法」(短縮セッション名:地震理論/解析法)【Geller,Robert・干場充之】

弾性体の変形、地震波の発生および伝播に関する理論的・数値実験的考察、そのモデル化、また、震源の物理や地球内部構造を明らかにする手法や定式化について議論する。また、最近の計算機の進歩などによる新しい視点に基づく手法およびこれらの応用例の紹介も歓迎する【主ホスト学会名:地震学会】

連絡先:Geller, Robert 〒113-0033 東京都文京区弥生2-11-16 東京大学大学院理学系研究科 TEL:03-5800-6973 FAX:03-3818-3247 bob@global.geoph.s.u-tokyo.ac.jp

Sb:「地震計測・処理システム」(短縮セッション名:地震計測/システム)【森田裕一・ト部卓】

最近の地震観測技術は衛星通信を用いたテレメータシステムの開発、日本列島全域にわたる新たな地震観測網の構築、レーザー技術を用いた新しい地震計等、めざましい発展がある。このセッションでは地震計測やその処理システムに関する最新の研究成果を取り上げる。また、火山物理、地球熱学等、他の固体地球物理分野の計測技術や処理システムに関する研究も大いに歓迎する【主ホスト学会名:地震学会】

連絡先:森田裕一 〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3812-2111(5704) FAX:03-3812-9417 morita@eri.u-tokyo.ac.jp

Sc:「地震発生の物理」(短縮セッション名:地震発生物理)【吉岡直人・鷲谷威・福山英一・武尾実】

地震の震源過程、発生場の環境、本震の発生に至る準備過程(応力の蓄積過程、断層の強度回復過程、破壊核形成などを包含)、地震サイクルなど、地震の発生に関わる物理的諸問

題を広く主題とします。観測、理論(モデル化と数値実験)、岩石実験を通して得られた研究成果の発表を歓迎します。
[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:吉岡直人〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2 横浜市立大学理学部 TEL:045-787-2344
FAX:045-787-2344 yoshi@yokohama-cu.ac.jp

Sd:「震源近傍の強震動」(短縮セッション名:震源近傍強震動)【入倉孝次郎・宮武隆・岩田知孝】

震源域の強震動は複雑な破壊過程に支配されている。震源の物理法則に基づく断層運動や震源の不均質破壊過程と強震動の生成について、理論的、観測的研究を一同に介し、震源の震源近傍の強震動に対する震源のコントロールファクターは何なのか、それは予測可能であるのかを議論する[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:入倉孝次郎〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄京都大学防災研究所 TEL:0774-38-4060 FAX:0774-33-5866 irikura@egmdpri01.dpri.kyoto-u.ac.jp

Se:「地震活動」【前田憲二・伊藤潔】

地震活動は地球内部で進行しつつあるダイナミクスの直接的反映である。このセッションでは観測される地震活動を支配する地球科学的プロセスを理解するため、個々の地震活動の詳細な観測・解析にとどまらず、さまざまな時間・空間スケールでの地震活動に関連する発表を取り上げる。さらに、地震活動に関連する地殻変動・火山活動・地質構造・その他観測された物理量の時空間変化、および最近のトピックス的な地震活動についての発表も歓迎する[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:前田憲二〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1 気象研究所 TEL:0298-53-8682 FAX:0298-51-3730 kmaeda@mri-jma.go.jp

Sf:「活断層と古地震」

(短縮セッション名:活断層/古地震)【佐藤比呂志・池田安隆】

内陸活断層やプレート境界断層の活動履歴やその地震像、活断層周辺の長時間地殻変動場は、被害地震の長期予測にとって基本的なデータである。兵庫県南部地震以降、各地で活断層の活動履歴の調査・研究が行われている。本セッションでは、このような具体的研究成果についての討論を通じ、古地震像の解明を目指す。活断層の活動履歴、地震時の変位量、活断層の浅部構造、スリップレート、活断層・歴史地震の調査手法、アクティブテクトニクス、長期予測モデル、長時間地殻変動場や津波堆積物・歴史文書から推定される古地震像についての広範な発表を歓迎する[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:佐藤比呂志〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3812-2111(5737)
FAX:03-5689-7234 satow@eri.u-tokyo.ac.jp

Sg:「活断層の動きを捉える --- 地震震源域の物理・化学・物質科学的解明」(短縮セッション名:活断層深部物性)

【飯尾能久・安藤雅孝・平原和朗・伊藤久男・竹内章・藤本光一郎・田中秀実】

従来、日本列島の内陸活断層は固着しており、滑りはないものと考えられていた。しかし、近年の測地観測(特にGPS)により、地形・地質学的に予測されていた動きよりも1桁以上大きな変動が検出されている。本セッションでは、このような断層の動きや地殻の変形を与える、断層面の構造、上部・下部地殻の構造と物性、応力場の性質を明らかにするため、広い分野の総合的な研究を目指す[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:飯尾能久〒305-0006 つくば市天王台 3-1 防災科学技術研究所地圏地球科学技術研究部 TEL:0298-54-0638 FAX:0298-54-0629 iio@nova.geo.bosai.go.jp

Sh:「地震関連電磁放射現象の発生機構の考察と予知への応用の可能性」(短縮セッション名:地震電磁放射)

【尾池和夫・長尾年恭・芳野起夫】

兵庫県南部地震以来、地震関連電磁放射現象の関心が急速に高まり、学際領域である事もあり急速に観測・研究者が増加した。しかし、この分野の研究が1980年ごろに開始されて以来17年を経過したにもかかわらず、地震の専門知識に乏しいまま観測結果を地震予知の可能性に短絡するだけで、電磁放射現象の発生や伝搬の機構について物理的解析に立ち入っていないものも多い。1997年合同学会の共通セッションでは、会場は終日満員となり関心の高さを示したが、この現象の本質を論じ、また地震予知への応用の可能性について討議を深める時期であり、今年度はこのような問題を中心にするセッションを提案する[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:尾池和夫〒606-8224 京都市左京区北白川追分町京都大学理学研究科 TEL:075-753-3946 FAX:075-711-1809 oiike@kugi.kyoto-u.ac.jp

Si:地震に伴う諸現象【加藤照之・佐竹健治】

地震現象の理解のためには地震に伴うさまざまな現象を総合的に分析する必要がある。地殻変動、地殻応力・重力変化、津波、地下水変化、電磁気現象など地震に関する諸現象についての観測報告の他、理論や実験に基づく研究も歓迎する。また、地震に先行する現象や、それに基づく直前予知に関する発表も受け付ける。異分野の研究者との研究交流を通じて新しい地震現象理解の道を探る[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:加藤照之〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3812-2111(5730) FAX:03-5689-7234 teru@eri.u-tokyo.ac.jp

Sj:「地殻の温度構造を探る」

(短縮セッション名:地殻温度構造)【山野誠・松林修】

地下の温度構造は、さまざまな地学現象と密接に関係している。本セッションでは、地殻表層からモホ面、さらに上部マントルに至るまで、熱と温度に関連する新しい研究成果を幅広く集めることによって、地下温度構造をより正確に求めることを目指す。また、地球科学の諸分野の研究において、温度構造についてこのような情報が必要であるという議論も歓迎する[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:山野誠〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3818-6283 FAX:03-3812-9417 yamano@eri.u-tokyo.ac.jp

Sk:「地球を掘る」【浦辺徹郎・末広潔・高川真一・池田隆司・徳山英一・安藤雅孝】

地球科学の究極の手段として、現在海陸の境界を超えた地球掘削が国際的な注目を浴びている。現在活躍している深海掘削計画(ODP)、大陸の超深部掘削計画に加えて、新たに21世紀の深海掘削計画(OD21)、国際統合深海掘削計画(IODP)、国際陸上科学掘削計画(ICDP)などの国際計画が提案されている。このシンポジウムではそれらの進展を紹介するとともに、掘削孔を用いて行われようとしている国内・国外の様々な計画(地震、火山、地熱、資源探査、長期計測)について概観し、相互の交流と連携の道を探る[主ホスト学会名:地震学会]

連絡先:浦辺徹郎〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1 地質調査所 TEL:0298-54-3612 FAX:0298-54-3633 urabe@gsj.go.jp

学会からのお知らせ

SL:「地殻構造と地殻活動」(短縮セッション名:地殻構造/活動)【平田直・宮町宏樹・駒澤正夫】
地殻のダイナミクスを理解するためには地殻の構造の知識が基礎となる。地殻構造とそれに関連した地殻変動や地震活動などの地殻活動に関する最新の研究成果を募集する。制御地震(人工地震)および、自然地震による構造探査、重力・電磁気学的探査など地震学以外の手法による地殻構造の推定、新しい地殻構造探査法、地殻構造と地震活動との関係に関する研究等、「構造」をキーワードとして幅広い分野からの参加を呼び掛ける【主ホスト学会名:地震学会】

連絡先:平田直 113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3818-3697 FAX:03-3813-8026 hirata@eri.u-tokyo.ac.jp

Sm:「地震動と地震災害」【池浦友則・横井俊明・植竹富一】
本セッションでは、地震動や地震災害の複雑さの解明を中心として「地震動と地震災害」に関連するテーマについて広く議論を行う。地震動特性の解釈や地震災害の解明といった現象の理解を目的とする基礎的な研究はもちろんのこと、震源特性や地盤構造の推定あるいはそれらに基づく強震動や地震災害の予測といった応用的な研究、さらにはより防災的な観点からの提案なども大いに歓迎する【主ホスト学会名:地震学会】

連絡先:池浦友則 182-0036 東京都調布市飛田給 2-19-1 鹿島技術研究所 TEL:0424-89-7115 FAX:0424-89-7116 ikeura@katrigw.katri.kajima.co.jp

Sn:「地震一般」【佐竹健治・田中聡】

地震学に関連した他のセッションに収まりきらない独自の視点を持った挑戦的、野心的な研究を歓迎します。内容によっては、コンピーナーの判断で関連するセッションへ回すこともあり得ます【主ホスト学会名:地震学会】

連絡先:佐竹健治 305-8567 茨城県つくば市東 1-1-3 地質調査所 TEL:0298-54-3640 FAX:0298-52-3461 satake@gsj.go.jp

Va:「火山の深部構造・マグマ供給系」(短縮セッション名:火山深部)【鍵山恒臣・高橋正樹・歌田久司】
マグマはどこにあるか?どのように上昇してくるのだろう

か?火山の構造は火山活動や噴出される物質とどのように関連しているだろうか?本セッションでは火山の構造やマグマ供給系を地震、電磁気、測地学、岩石学、地球化学などの幅広い分野から検討し、上記の疑問を考えたい【主ホスト学会名:火山学会】

連絡先:鍵山恒臣 113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所 TEL:03-3812-2111(5810) FAX:03-3812-6979 kagiyama@eri.u-tokyo.ac.jp

Vb:「噴火のモニタリングと火山災害」(短縮セッション名:火山活動と災害)【渡辺秀文・大場武】

火山噴火の予測や火山災害軽減のための、活発な火山地域における地球物理学的・地球化学的・地質学的モニタリングの研究成果・手法開発に関する研究、および、最新の火山活動による噴出物に関する研究を募集する【主ホスト学会名:火山学会】

連絡先:渡辺秀文 113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東大地震研究所 TEL:03-3812-2111-5773 FAX:03-3812-6979 watanabe@eri.u-tokyo.ac.jp

Vc:「火山発達のプロセス」(短縮セッション名:火山発達)【金子隆之・鎌田浩毅】

火山発達に関する地形学・地質学・岩石学的研究の発表を募集する。テクトニクスと火山の形成場、活動史の解釈、噴火年代の決定、火山噴出物の堆積機構を含む【主ホスト学会名:火山学会】

連絡先:金子隆之 113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東大地震研究所 TEL:03-3812-2111(5768) FAX:03-3812-6979 kaneko@eri.u-tokyo.ac.jp

Vd:「マグマの移動と噴火のダイナミクス」

(短縮セッション名:マグマ移動)【寅丸敦志・小屋口剛博】
マグマが蓄積された場所から移動し地上にもたらされる過程、および噴火過程に伴う地球物理・地球化学・地質学的側面の現象解釈とそれらに関する種々のモデリングに関する研究を募集する【主ホスト学会名:火山学会】

連絡先:寅丸敦志 920-1192 金沢市角間町金沢大学理学部地球学教室 TEL:076-264-5730 FAX:076-264-5746 toratora@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp

日本考古学協会第64回総会の案内

期日:1998年5月23日(土)・24日(日)

会場:青山学院大学渋谷校舎(東京都渋谷区渋谷4-4-25)

主催:日本考古学協会・日本考古学協会第64回総会実行委員会

事務局:日本考古学協会第64回総会実行委員会

青山学院大学文学部史学科 清水研究室

電話03-3409-8111 内線2356・2235

日程:5月23日(土)

総会 10:00~12:00、17:10~17:30

講演会 13:00~17:00

「特集 江戸の考古学」

懇親会 18:00~20:00(青学会館)

5月24日(日)

研究発表(2会場使用) 9:00~12:00

13:00~16:30

図書交換会 10:00~15:00

*考古学協会の講演・発表の傍聴は、会員以外の一般の方にも、広く開かれています。

IGBP PAGES Open Science Meeting

古環境変動研究に関する国際会議が以下のように開催されます。参加登録締切は1998年3月15日です。会議の詳細および登録申し込み様式等はIGBP PAGES ホームページ[<http://www.pages.unibe.ch/pages.html>] をご覧下さい。

IGBP PAGESの連絡先は、PAGES International Project Office, Barenplatz 2, Bern CH-3011, Switzerland, Fax: +41-31-3123168, e-mail: pages@ubeclu.unibe.ch です。

Past Global Changes and Their Significance for the Future

IGBP PAGES Open Science Meeting

Royal Holloway University Of London, UK
April 20 - 23, 1998

The record of past global change provides many of the insights needed to understand how the global climate system operates: past, present and future. The goal of the IGBP PAGES First Open Science Meeting is to present state-of-the-art paleoenvironmental research results that help to narrow uncertainties regarding future climate and global change. The meeting will also serve to highlight the international science and data activities of the PAGES program.

The meeting will be organized around invited plenary presentations and high-profile poster sessions. The poster sessions will be focused on the recent scientific results of PAGES activities, and the plenary Presentations will focus on:

1. The full range of climate system variability
2. Climatic forcing
3. Climate system processes
4. Modeling the climate system
5. Biotic responses to climate change
6. Human consequences of climate change

The Meeting will open with registration and a reception on the evening of April 19, 1998, followed by the first lecture and poster sessions on April 20 from 8:30 am onwards. The closing sessions will be during the afternoon of April 23.

The Meeting is sponsored by PAGES, the Environmental Change Research Centre, University College London and the Centre for Quaternary Research, Royal Holloway University of London.

Draft Program

MONDAY APRIL 20

- Ray Bradley: Introductory overview
 Keith Briffa: Annual climate variability in the Holocene; interpreting the message of ancient trees.
 Mike Gagan: Corals: grand archives of tropical paleoclimate
 Lonnie Thompson: Ice core evidence for Climate Change in the Tropics: Implications for our future
 Vera Markgraf: Interhemispheric paleoclimate linkages and forcing in the Americas from decadal to millennial scales
 Zhisheng An: The history and variability of East Asian monsoon climate
 Francoise Gasse: The temporal evolution of African climates based on lake system records

Jim Knox: TBA
 POSTER SESSION 1

TUESDAY APRIL 21

- Richard Alley: Abrupt climate changes of the past -- and the future? -- lessons from the Greenland ice cores.
 Elsa Cortijo: Rapid climatic variability of the Atlantic Ocean and global climate: a focus on the IMAGES program.
 Dominique Raynaud: The past record of greenhouse gases: a view in the context of future changes
 Juerg Beer: TBA
 Greg Zielinski: Determining the range of variability in the volcanism-climate system through multi-disciplinary evaluations of explosive eruptions over the last 100,000 years.
 Thomas Stocker: Past and future reorganizations in the climate system.
 Suki Manabe: The study of abrupt climate change by a coupled ocean atmosphere model
 Edouard Bard: Comparing temperatures of the glacial ocean quantified with the alkenone method and simulated by numerical models.

POSTER SESSION 2

WEDNESDAY APRIL 22

- Anne De Vernal: Sea-ice, sea-surface salinity and the halo/thermocline structure in the northern North Atlantic: modern vs. last glacial maximum
 Sylvie Joussaume: The Paleoclimate Modeling Intercomparison Project: what can we learn when using several different climate models run under past climates.
 Sandy Harrison: How well can we simulate past climates? Evaluating the models using global paleoenvironmental data sets.
 Jean Jouzel: Water isotopes in precipitation: Data/model comparison for present-day and past cli-

シンポジウム案内

mates

David Rind: TBA

Colin Prentice: Role of the terrestrial biosphere in Earth system dynamics.

Ed Boyle: Abrupt Climate Change and the Ocean Thermohaline Circulation: The Search for Causes and Effects

Tom Pedersen: Influences of Oceanic Rheostats and Amplifiers on Atmospheric pCO₂ During the Late Quaternary

POSTER SESSION 3

THURSDAY APRIL 23

Paul Colinvaux: Response of Amazonian and other tropical plant communities to climatic changes of glacial cycles.

Rick Battarbee: Lakes, climate change and the role of paleolimnology: past changes, future threats

Peter DeMenocal: Holocene variations in subtropical Atlantic Climate and SSTs: a perspective on past social implications of abrupt change

Jonathan Overpeck: Assessing future climate change and its impacts: the role of PAGES data

Bruno Messerli: TBA

Panel Discussion chaired by Chris Rapley

IGCP396 国際会議のお知らせ

International Geological Correlation Programme (IGCP) Project No. 396
'Continental shelves in the Quaternary'
3rd Annual Conference

Dates - October 26 -30, 1998

Venue - National Institute of Oceanography
Dona Paula, Goa, India

Sponsors / likely sponsors:

UNESCO, IUGS, INQUA, CSIR, NIO, DOD, GAIL, DGH, ONGC, GSI, NGRI, NRSA, OIL, DST

This is the third annual conference of IGCP 396 following the inaugural meeting in Sydney and the second annual meeting in Durham. The five day Conference will consist of oral and poster sessions, a 1-day workshop aimed at training, business meetings and excursions.

Topics to be covered -

Regional Perspectives, Palaeoceanography, Dating of shelf sequences, Seismic stratigraphy, Shelf processes, Geochemistry of sediments, Marine geotechniques, Non-living resources, and Modelling

Tentative programme -

October 25, 1998: Arrival in Goa; Registration
October 26, 1998: Registration; Business meeting and scientific sessions

October 27, 1998: Scientific sessions

October 28, 1998: Goa coast excursion

October 29, 1998: 1-day workshop

October 30, 1998: Scientific sessions and business meeting

October 31, 1998: Optional excursion to examine archaeological sites

Registration -

Foreign delegates: Registration fee:

US \$ 125 (up to July 31, 1998)

US \$ 150 (after July 31, 1998)

Indian delegates:

Registration fee: Rs. 1000 (up to July 31, 1998)

Rs. 1200 (after July 31, 1998)

Registration fee covers:

- (1) Participation in scientific sessions, business meetings, workshop and the Goa coast excursion.
- (2) Conference materials including a copy of the abstracts.
- (3) Conference dinner, lunches and tea/coffee during breaks.

Accommodation -

Full details on accommodation arrangements will be provided in the Second Circular on March 31, 1998. Charges are expected to range from US \$30 to 125 per night (single/double occupancy), depending on the class of hotels. Participants must pay one day's accommodation charges in advance together with the registration fee and settle the balance during check-out. Due to heavy tourist rush during the period, it is advisable to confirm accommodation requirement well in advance.

Excursions -

- (1) 1-day field excursion to the coast of Goa on October 28, 1998. The cost of this excursion is included in the registration fees.
- (2) 1-day optional excursion to archaeological sites including the Basilica of St. Francis Xavier on October 31, 1998. The charges for this excursion will be US \$ 15 for foreign delegate and Rs. 250 for Indian delegate.

Sponsors -

Corporate bodies as well as government departments / agencies are welcome to sponsor the IGCP 396 3rd Annual Conference. If interested, please check the box on the preliminary registration form shown below.

IGCP 396 funding -

Some funding is expected to be available to as-

sist foreign participants from developing countries to attend. Please apply to the project co-leaders (Dr. W.W.S. Yim or Dr. P.J. Davies) together with a copy of the abstract before July 31, 1998.

Information on Goa -

Details on Goa including weather, transport and the National Institute of Oceanography will be provided in the Second Circular.

For further details, please contact:

Co-convenors:

Dr M. Veerayya and Mr K.H. Vora
IGCP 396 3rd Annual Conference
National Institute of Oceanography,
Dona Paula, Goa, India. Fax: 91(0) 0832 223340 /
239102 Tel: 221322 / 226253 E-mail: veerayya
@csnio.ren.nic.in, vora@csnio.ren.nic.in

At present there is a problem with csnio.ren.nic.in, hence you are requested to send your e-mails on :
veerayya@darya.nio.org vora@darya.nio.org

Project co-leaders:

A/Prof. W.W.S. Yim
Department of Earth Sciences, The University of
Hong Kong, Pokfulam Road, Hong Kong, China
Fax: 852-25176912 E-mail: wwsyim@hkucc.hku.hk
Prof. P.J. Davies
Department of Geology & Geophysics, The Univer-
sity of Sydney, NSW 2006, Australia
Fax: 61-2-93510184 E-mail: pjd@beryl.es.su. oz.au

IGCP 396 WWW page:
<http://www2.env.uea.ac.uk/gmmc/index.html>

World Archaeological Congress (世界考古学会議)のお知らせ

世界規模の考古学の組織の一つである World Archaeological Congress は4年毎に開催され、伝統的な学問区分だけでなく、文化財保存、公教育と考古学、発掘調査と少数民族問題などにも積極的な取り組みや、こうした問題の発表が常にプログラムとして組み込まれています。会議の概要と組織委員会のメッセージを下記に転載します。詳しくは World Archaeological Congress のホームページをご覧ください [<http://www.uct.ac.za/depts/age/wac/index.htm>].

World Archaeological Congress 4 University of Cape Town, South Africa, 10th - 14th January 1999

AN INVITATION TO SOUTH AFRICA IN JANUARY 1999

Greetings.

We invite you to attend the fourth meeting of the World Archaeology Congress in Cape Town during the southern hemisphere summer of 1999.

WAC was inaugurated at its first congress in Southampton, in 1986, and last met in New Delhi in 1994. Its conferences and inter-congresses have continued to develop the global dimension of archaeology and the social role that archaeologists play as interpreters of the past. We expect more than a thousand delegates in Cape Town, and we are planning an exciting and stimulating programme that will do justice to the turn of the millennium.

It is singularly appropriate that WAC4 should be in South Africa, and at the University of Cape Town. The World Archaeology Congress was formed in opposition to apartheid, highlighting the relationship between the study of the past and the politics of the present (an issue that remains controversial, as the WAC meeting in India showed so well). South Africa's first democratic elections in 1994 ended a long, bitter era and archaeologists here are now free to be part of a world community of scholarship. Much remains inequitable, but we are now able to tackle racism, poverty, ignorance and prejudice from within a legitimate society. It is testimony to the importance of archaeology in the reconstruction of our history and heritage that President Nelson Mandela has agreed to be Patron of WAC4.

We are honoured to have the Vice Chancellor of the University of Cape Town, Mamphela Ramphele, as our President for WAC4. She is a physician and anthropologist who is also a leading activist and feminist scholar. The University of Cape Town, one of Africa's oldest and most distinguished universities, has modern, well equipped lecture halls and meeting rooms, and can provide a fully-residential congress, offering WAC delegates the opportunity of informal interactions as well as organised symposia. In addition, we will have a diverse range of congress tours that encompass all major aspects of the archaeology of southern Africa.

We look forward to welcoming the archaeological world to WAC4 in 1999.

Martin Hall

Academic Secretary and Professor of Historical Archaeology University of Cape Town.

自然史学会連合ニュース（抜粋）

1997年10月25日（土）、国立科学博物館分館において、第3回シンポジウム「動物たちの過去、現在、未来 - 絶滅の動物学 - 」に先立ち、定期総会が開催されました。速水格連合代表の開会挨拶の後、小野幹雄種生物学学会代表を議長に選出し、21学協会の代表者の出席と5学会からの委任状により総会の成立を確認しました。

報告事項

加盟団体について：下記の32学協会です。種生物学会・植物分類地理学会・植物地理分類学会・地学団体研究会・（社）東京地学協会・日本遺伝学会・日本衛生動物学会・日本貝類学会・日本花粉学会・日本魚類学会・日本菌学会・日本蜘蛛学会・日本古生物学会・日本昆虫学会・（社）日本植物学会・日本植物分類学会・日本人類学会・日本生態学会・日本生物地理学会・日本蘚苔類学会・日本藻類学会・日本第四紀学会・日本地質学会・日本地理学会・（社）日本動物学会・日本動物行動学会・日本動物分類学会・日本鳥学会・日本ベントス学会・日本哺乳類学会・日本鱗翅学会・日本霊長類学会（あいうえお順）。

自然史学会連合第2回シンポジウム「未来の自然史教育を探る - 科学者の眼、子供の眼 - 」は、すでに報告したように、1996年10月26日（土）、東京大学教養学部で開催されました。運営費は日本植物分類学会が受けた科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」と（財）国際花と緑の博覧会記念協会からの援助金を利用しました。（講演内容省略）

第3回シンポジウム「動物たちの過去、現在、未来 - 絶滅の動物学 - 」は1997年10月25日（土）（総会当日の午後）、国立科学博物館分館の講堂で行われます。同上科研費を受けた日本動物分類学会、および国立科学博物館が共催者となっています。（講演内容省略）当日、約200名の入場者があり、盛況でした。

文部省科学研究費時限付分科細目「自然史科学」について：本年度は審査員（6名）の変更はありません。申請件数が多くないと、最終年度（平成11年度）で打ち切られる心配があります。この分科細目のもとに多くの申請が出されることを希望しています。

審議事項

地衣類研究会の加盟について：すでにメールとファクスで賛否を問い、結果として加盟を認める方向にありましたが、正式な学術団体でない場合には総会で論議すべきだとの意見がありましたので、改めて提案致しました。会員数が約180名であるが、特殊な生物群を対象とした研究会だということを考慮して審議が行われ、加盟を認めることとなりました。今後も、同様な加盟申請があった場合には、定期総会で審議することになります。連合代表、運営委員の選出について：連合代表

に推薦された現代表の速水格古生物学会代表について信任投票により賛否を問いました。圧倒的多数で再任されました。任期は2年です。運営委員は団体代表の中から7名程度を総会で選出することになっています。また、多岐にわたる分野の研究者が含まれることが望ましいとなっています。現在の運営委員は日本古生物学会の速水格、日本植物分類学会の西田治文、日本人類学会の馬場悠男、日本藻類学会の田中次郎、日本地質学会の斉藤靖二、日本動物分類学会の武田正倫、日本ベントス学会の白山義久ですが、このうち前5人が留任し、新たに日本貝類学会の上島励、日本魚類学会の松浦啓一、日本哺乳類学会の遠藤秀紀の各氏が選任されました。任期は2年です。

分担金について：今後も学会の規模に拘わらず、各学協会一律に年20,000円を拠出することを確認致しました。各学協会の代表者には総会あるいは役員会などで了承を得ていただくようお願い致します。不公平感がないようにしたいと思います。

今後の運営

第4回シンポジウム：開催の予定。ただし、自己資金をなるべく使わないために科研費を申請する必要があります。どの学会から申請するかテーマはどうするかなどは運営委員会に一任することにしました。運悪く不採択ということもあるかもしれません。

科研費の審査委員についての選定方針：夏に学術会議より諮問があるはずですが、その際昨年と同じように、動物科学、植物科学、地球科学、生物科学一般の基本的な4グループに分けて不公平のないように審査委員を選定するのがよさそうです。

ガイアリスト21の後援：（社）日本動物学会で作成した資料を配布しました。後援を依頼された際には動物学会とともに具体的な方法を考えることにします。

ホームページの開設：学会情報センターではなく、国立科学博物館のサーバーを利用して立ち上げました（kahaku.go.jp）。一部すでに書き込んでありますが、今後は各学会に掲載するデータに関してお願いすることになります。

大学博物館に関する要望：「大学博物館と模式標本類の保全についての要望」という文書を連合代表名で大学当局（あるいは具体的に学部長）宛に送付する。配布した文案に対してご意見のある方は早急にお寄せ下さい。

連合の年度：暦年です。したがって、年度末はまだ先ですが、分担金を未払いの学会は今年中にお願ひ致します。代表と運営委員の任期は2年ですが、各学協会の代表者はいつでも交代が可能です。しかし、頻繁な交代は歓迎できませんし、また、集まりにご自身で出席できる方が代表になっていただきたいと思ひます（代理で出席される方は、学会の全権を委任されていないと困ります）。

その他：大学はまず大丈夫だろうと思ひますが、国立の博物館がエージェンシー化される危険があります。この問題に対処するために、自然史学会連合にお力添えをお願いするかもしれません。

第5回幹事会議事録

日時：1997年11月15日（土）

14:00～16:30

場所：東京大学理学部5号館6階地理学教室

会議室出席者：米倉伸之（会長）、太田陽子、真野勝友、松浦秀治、小野昭、奥村晃史、中村俊夫、山崎晴雄、学会事務センター 山本麻由子

1. 庶務

- ・郵便番号7桁化に伴う経費負担について
- ・機関誌・財政等検討委員会の委員、小池裕子、杉山雄一、海津正倫、鈴木三男、小田静夫に決定した。
- ・受け入れ図書報告

2. 会計

- ・第四紀研究36巻3号の印刷経費108万円、全体として若干赤字になっている。編集・第四紀研究36巻3号を刊行した。5号は12月下旬に発送し、年末あるいは年初に会員の手に届ける。

3. 会報

- ・第四紀通信4巻5号を10月中旬に発行した。原稿が多く、積み残しがある。次号は11月末原稿締切、合同大会の案内・申し込み記事を載せる。

4. 渉外

- ・自然史学連合の定期大会が10月25日に開かれた。

5. 行事

- ・99年大会開催地は京都大学の内諾がとれた。

5. 企画

- ・10月18、19日青森市の三内丸山遺跡体験学習館において第四紀講習会を実施した。参加者を25名

に絞り込んで石器を使つてのイノシシの解体を行い好評を博した。

- ・2月の評議員会、ミニシンポについて。会場は選定中。シンポジウムは「南西諸島喜界島のサンゴ礁段丘に関する諸問題と最近の成果」オーガナイザー；太田陽子・大村明雄・中森亨。

6. 研連報告

- ・学術会議第四紀研連の役員決定。委員長；太田陽子、担当会員；鎮西清高、幹事；小野有五、町田洋。なお、今後は同一機関からの委員が多にならないよう配慮してほしいとの要望があった。

7. 審議事項

- ・科研費「学術定期刊行物」補助金の申請について（庶務）：庶務幹事より申請書作成の骨子が示され承認された。11月下旬には学会事務センターを通じて文部省に送付する。
- ・会員名簿の作成について（会計）：8月の総会では財政危機の折り名簿作成を延期せよとの意見もあったが、従来2年ごとの刊行を3年ごとに改めたばかりであり、今回は延期できない。発行に向けて準備を進めることに決定した。
- ・会費滞納による会誌発送停止者への対応（庶務）：歳入欠陥は財政危機の原因の一つであり、該当者へは、期限を決めて会費納入を促す特別の督促状を会費請求書に同封して送付する。督促状の文案は庶務幹事が作成する。納付の無い場合は2月の評議員会にて除名処分することを決定した。

表紙写真 仙台市富沢遺跡保存館・地底の森

地底の森ミュージアム開館のお知らせを第四紀通信 No. 4-5, p. 7 に掲載いたしました。その時掲載できなかった地底の森の写真です。以下は同保存館の案内書からの抜粋です。

仙台市富沢遺跡保存館・地底の森ミュージアムの地下展示室（900平方m）では、2万年前の森と人類の生活跡を特殊な薬品で処理をして、発掘されたままの姿で保存・公開しています。たくさんの樹木の根や倒れた幹が一面に広がり、標高の高いところには旧石器人のキャンプ跡があります。また、映像では当時と同じような風景や人間の活動のようすを復元しています。

生活跡のまわりからは当時の環境を語ってくれる樹木・球果・葉・種子などの植物化石、昆虫化石、動物のフンなどが多数見つかっています。その中でここに森林があったことを示すのが生々しい樹木群です。これらは主に根株や幹などで、そのほとんどがトミザワトウヒやグイマツ・モミといった針葉樹でした。樹木の中には300年をこえる細かな年輪が確かめられた例もあり、寒冷な気候条件の中で300年以上もたくましく生育していた植物の姿が浮かんできます。

富沢遺跡は仙台市の東南部に広がる面積が約90haという広大な遺跡です。このあたりには、郡山低地という名取川と広瀬川に囲まれた沖積地が広がっており、遺跡はその中の後背湿地を中心に立地しています。富沢遺跡では1982年（昭和57年）から発掘調査が行われ、その結果、弥生時代から明治時代にかけての水田跡が広い範囲に何層もあることがわかり、大規模な水田遺跡として知られるようになりました。また、その後の調査で下層から縄文時代の層が確認され、さらに第30次の調査で初めて旧石器時代の生活跡が見つかり、富沢の歴史が2万年前までさかのぼることが明らかになりました。

